

相馬に学ぶ

未曾有の被害をもたらした東日本大震災。復興に力強く取り組んでいる自治体やそこに住む人々から、数々の教訓を学ぶため、講演会と写真展を開催します。



平成23年4月28日 相馬市役所で立谷市長(右)と

米原市防災講演会 「東日本大震災 相馬市の対応」

講師 福島県相馬市 たちや立谷 ひできよ秀清市長

日時 6月30日(土) 13時～15時
会場 ルッチプラザ ベルホール310

「水源の里」をテーマにまちづくりを進める同志として、東日本大震災以降、市では市民のみなさんご協力をいただきながら福島県相馬市の復興を支援してきました。

相馬市は福島第1原子力発電所から50km圏内に位置しており、自らが被災地でありながら隣接市の避難者を受け入れていたこと、放射線の土壌汚染や風評被害で地場産業に深刻な被害を受けたことなど、敦賀原子力発電所から同じく50km圏内に位置する米原市としては、相馬市から学ぶべきことがたくさんあります。

今回の講演会では、強いリーダーシップで震災直後の対応とその後の復興を導いてこられた相馬市の立谷市長を講師にお迎えし、災害時相互応援協定も締結します。

災害対応の「現実」を学ぶとともに、復興支援と情報共有をお互いに進めながら、相馬市と米原市の絆を深めていきたいと思います。

講演会スケジュール

13時 開会

13時15分

災害時相互応援協定の締結

講演「東日本大震災
相馬市の対応」

相馬市 立谷秀清 市長

14時30分

中間報告

「地域防災計画の見直し」

米原市 防災危機管理局長

その他の会場イベント

●パネル展「記憶の記録」

支援に向かった消防隊員が撮影した被災地写真の展示。震災を風化させず、私たちの教訓に。

●復興応援「みちのく市場」

復興支援の特産品販売。支援の輪をいつまでも。

●ぐらっと体験「震度7」

新型の地震体験車「なまずん号」で東日本大震災級の揺れを体験。

お問い合わせ 近江市民自治センター自治振興課(近江庁舎) ☎52-6920 ☎52-8730

6月から 環境放射線を 測定します



原子力災害が発生した場合には、異常な放射性物質または放射線が放出し、私たちの生活に影響を及ぼす可能性があります。

このような時に平常時と異なる放射線放出にいち早く気づくためには、普段から自然界に存在する放射線量やその変動幅についてデータ収集することが必要です。

米原市においても、原子力災害が発生した場合に迅速に対応できるよう環境放射線を測定し、その結果を市民のみなさんに公表していきます。

●測定日時

6月から毎週水曜日8時30分～9時
(水曜日が休日の場合は翌平日)

●測定場所

市役所各庁舎の駐車場

●測定機器

放射線サーベイメータ RDS-30
(ミリオンテクノロジーズ社製)

●測定方法

地上1.0mと0.5mの高さで、30秒ごとに5回測定し、その平均を測定値とします。

●公表方法

測定結果は、市公式ウェブサイトで公表していきます。



伊吹山テレビ講座も見てね！
「知っておこう！
身の回りの放射線」

6月1日(金)～6月7日(木) 放送



お問い合わせ 防災危機管理局(近江庁舎)
☎52-6630 ☎52-6930

水源の里まいばらOYAKO写真展 withブルース・オズボーン 「かけがえのないもの」 ～東北で出会った親子たち～

会期 6月16日(土)～12月26日(水)
会場 米原駅Oyakoギャラリー

長年、「親子」をテーマに撮り続ける写真家ブルース・オズボーンさん。東日本大震災以降は、福島県相馬市をはじめ、宮城県や岩手県の被災地を訪れ、「新たな出発の記念にしてほしい」との願いを込めて、被災地の親子や家族、仲間の写真を撮影するプロジェクトを展開されています。このたび、米原駅東西自由通路の「米原駅Oyakoギャラリー」にて、オズボーンさんの写真展「かけがえのないもの」～東北で出会った親子たち～を開催します。

この写真展を通じて、被災地支援の輪の風化を防ぐとともに、震災の

教訓から親子の絆の重要性を考え、自らの絆を確かめ合う機会にしたいと考えています。ぜひ、ご家族おそろいでお立ち寄りください。

ギャラリー展示概要 (予定)

- ▼相馬市・宮城県・岩手県で撮影された親子などの写真 22点
- ▼被災地からのメッセージ 8点
- ▼水源の里まいばらの親子写真 21点

お問い合わせ
水源の里振興室(伊吹庁舎)
☎58-11121 ☎58-1630



平成23年4月6日 相馬市にて(市職員撮影)